

十勝農業賞 藤田さん（新得） 三浦さん（大正）受賞

十勝の農業発展に貢献した生産者と指導者を表彰する「第39回十勝農業賞」（十勝農協連主催）の受賞者に新得町の農業藤田文晴さん（68）と、J A帯広大正畜産課長の三浦均さん（55）が選ばれた。帯広市内の農協連ビルで16日に表彰式が開かれ、同連の山本勝博会長から賞状とブロンズ像が手渡された。



十勝農業賞を受賞した藤田さん
夫妻（右）と三浦さん夫妻

リーダーとして活動 藤田さん

農業者の部門で受けた藤田さんは、経営面積約83ヘクタールのうち10ヘクタールで種ジャガイモを栽培し、J A新得町の種ジャガイモ組合では2004年まで4年間会長を務めた。新得町農業委員を15年、同J Aの代表監事を6年、畑作振興会長を2年務めるなど生産者のリーダーとして活動してきた。藤田さんは「受賞は大変光栄。J Aなど周囲が、いろいろな面で協力してくれたおかげ」と喜んだ。

和牛の改良をけん引 三浦さん

J Aで畜産畑一筋36年の三浦さんは、指導者としての受賞。管内J Aの和牛担当職員でつくる十勝和牛改良委員会の初代委員長を務め、和牛の産地化に向けて改良方策の策定と推進、提言に取り組んだ結果、和牛繁殖農家の経営安定に尽力。「十勝の和牛のレベルを上げる夢が少しずつ実現してきてうれしい。農協連や組合員の理解、協力があつての賞で恐縮している」と語った。

同賞は1977年から毎年実施。十勝農業賞審議委員（委員長・奥田潔帯広畜産大学学長、委員7人）が受賞者を決めている。

九神ファーム（芽室）全国表彰 安倍首相も祝福
「農山漁村の宝」特別賞 障害者雇用し6次産業化

2016年12月3日



安倍首相と記念撮影する藤田社長
（左から2人目、左は三國シェフ）

【東京】農山漁村活性化の優良事例を顕彰する、内閣官房、農林水産省主催の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」交流会が2日、都内の首相官邸であり、九神ファームめむろ（芽室町、藤田敏子社長）が特別賞のアクティブ賞に輝いた。席上、安倍晋三首相は藤田社長ら受賞者と交流し、障害者による農業や6次産業化の成果を祝福した。

同賞は優れた農山漁村の取り組みを全国に発信し、地域活性化、1次産業の所得向上を目指す。3年目の今年は全国769地区から応募があり、10月に道内3地域を含む全国30地域を優良事例に選定した。この日の有識者懇談会でグランプリのべつかい乳業興舎（根室管内別海町）と特別賞4地区を選んだ。

九神ファームめむろは、障害者や高齢者が農業、総菜製造、レストラン営業など、生産から加工、調理、販売までに当たる。障害のある従業員や総菜生産量を順調に増やし、従業員の福利厚生も充実させ、社会参加と生きがいの場を提供していることが評価された。

交流会では安倍首相が「地域の宝が日本の宝、世界の宝になるよう期待している。魅力ある農山漁村を守り、発展させたい」とあいさつした。藤田社長に山本幸三内閣府特命担当大臣（地方創生担当）からトロフィーが手渡され、菅義偉官房長官の発声で乾杯した。

安倍首相は同ファームが手掛けたポテトサラダに舌鼓を打ち、藤田社長や有識者懇談会委員の三國清三シェフ（留萌管内増毛町出身）と歓談。北海道の恵みを生かした取り組みをたたえた。